魚住新聞

第4号 12月 魚住新聞

音羽小学校 稲波悠真

有力情報 5/30

鯰仲間の相宗くん→

5月30日早朝に鯰仲間の相宗君から用水路の流れを逆上っている鯰がいる！と連絡があった。用事を済ませ、夕方到着した。「鯰の卵を取れるかもしれない」と思い網を入れると 40cm 程の雄魚が取れた。鯰が一生懸命に守りぬま産んだ自分が元気にふ化した稚魚を大切に育てようと思いながら10匹取れた中から3匹持ち帰った。

滋賀県守山市の用水路

体長15cmの鯰が体長8cmのおたまをひとのみ!

情報提供

父の職場にいる遠藤さんが亀岡市で地球環境子ども村に配属され、アユモドキの捕獲研究をしている友人が、アユモドキを捕獲しようとするとナマズばかりが網に入って困るとなげいていたと話してくれた。六月一日に行って見たが捕獲禁止地区になっており入れなかった。

細く浅い水路を泳ぐ母鯰を発見!!

アユモドキカムバック大作戦

捜査本部開設

5月下旬～6月下旬産卵ピーク!!

守山の手畑の用水路を発見し網を入れていると、作業をしている農家の方がいた。鯰について色々話してくれ確実に鯰が田んぼに出入りしている事を確認。

一週間後……

色いつぶがついている稚魚

謎の白点 鯰体を覆う…

鯰はウロコが傷が無いため魚に付きやすい病かびやすいんやでなりやすいんや

水 かび病やなぁ…

琵琶湖博物館に勤めた稚魚を持って専門の先生にお聞きしました。

Q ずばり水かび病の原因は何ですか？

A ナマズの体にスリキズが出来る事でおこります。

Q ストレスでは？

A ヌストレスは関係ないです。

Q 対処法はありますか？

A 傷を見つけたら塩水の中に入れてやるといいですよ。

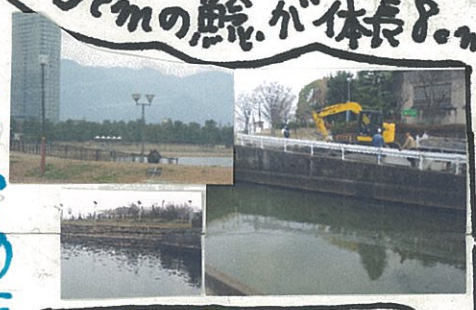
Ⓐからたびたび脱走…小さなすき間から脱走出来た時に傷がするのだろう。

白点の拡大写真 白点はナマズの寄生虫の卵

今じゃあ産む場所がないの

景観 安全 便利

人間にとって「住み良い」は自然界にとっては良くない事がよくあるの。整備された川には草もなく、どろもなく、かくれられる所は缶やペットボトルなの。



3過装置2号

水槽Ⓐには石少利や石、かくれ家、流木、カナダモ、タニシ、ドジョウ、カワムツ、オタマなどを入れ、1月をふくめ、1年間かけて鯰用の水域を作った。

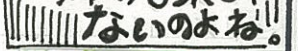
共食いしないようにかくりができる水そうを考えた。

水路は今。。。

ところで母ナマズが卵を産みに来た用水路はどうなっているのだろう。稚魚のエサを取るついでに見に行くと、水路は、水が無くなり、オタマはカエルになり、つながる川にはザリガニが沢山いた。水が無くなぜ稚魚達はどうなるのか……。これはよくある現象で母ナマズは浅瀬で卵を産み浅いので水温も上がりやすくドロ底で微生物も多く、鯰稚魚が育ちやすい。少し大きくなった稚魚はすぐ水モやオタマを食べられるようになり、川へと移動して行くのだ。

この水路の赤久化や鯰の様子をこれからも見て行きたいと思う。

なかなか エサ取りも楽じゃないのよね。



ナマズはとてもどんくさい。どう猛だと思われがちだし、確かに食いっぷりはすごくよく事もある。しかし、生餌をとれてばらく見ていると面白い。生餌に気付かれない様に水草に隠れて狙うのだが、どこから見ても丸見えなのである。そして獲物は確実に気付かれている。大きい生餌は飲みきれず吐き出す事をよくある。ヨシノボリの様にあまり動かない魚だったら気付けない。餌が食べれたらはくりしてやる。

稲波3過器2号

～13カ月水替えせずで魚も元気!!

お問い合わせは 075-000-0000 稲波悠まで

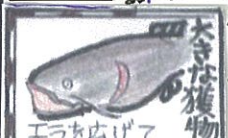
鯰のふん

自由研究にピッタリ 075-000-0000

魚が黄色に!?

鯰は黒いと思っている人は多いだろう。確かに黒いが時々黄色く変色する。不思議に思い三ケ月観察してみた。すると夜によく変色する事が分かった。雷気を付けたりする事で体色がだんだん黒くなる事からストレスが関係しているのではないかと思う。これからも注意深く観察して行きたい。

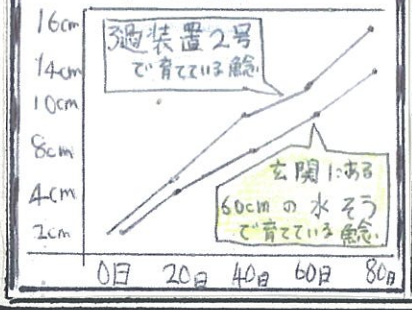
大きな獲物もひとのみ…



エラを広げて口を大きくする

仕くれよ。

2ケ月で7倍に!!



編集後記

食べるとよっぽどおなかがすくね。

一沢山の方々の御協力のもと、魚住新聞も第四号を迎える事が出来ました。今回の新聞では、特にイラストに集中時間をかけて分かりやすくまとめました。皆様楽しんでいただけましたか？

どんくさい

絵・文 いなみゆうま

透き通る水 きれいな川

「魚の住み良い川」それは水がきれいな川全般の事だろうか。私の家の近くに一本の細い川がある。その川は透き通りカワニなどきれいな水の指標生物が住んでいる。しかし魚を見た事は無いコンクリートで固められ砂利なども定期的に撤去されれ流れも速く魚が住むための条件をみたしてはいないのだ。昔は自然の川だったが、四年前と四年前、台風で洪水になってからこのような姿に変わったのである。きれいな川は少しずつも自の住み良い川とはかぎらないのだ。